

新潟開志専門職大学インターン生と作る大衆演劇公演レポート

一般社団法人日本文化大衆演劇協会

■レポート概要

(一社)日本文化大衆演劇協会の会員劇場である古町演芸場(新潟市中央区)では、大衆演劇の認知拡大および地域活性化などを目的とし、地元の専門職大学よりインターン生を受け入れ、劇場運営の経験の場を提供する取り組みを行っています。2022年12月、古町演芸場において、新潟開志専門職大学インターン生と制作する大衆演劇公演を行いました。その概要をレポートします。

■開催概要

- ・企画 新潟開志専門職大学インターン生と作る大衆演劇公演 お芝居「明和義人伝」
- ・開催日 2022年12月18日(日)
- ・場所 古町演芸場(支配人 逸見友哉、新潟県新潟市中央区古町通6-967-2)
- ・参加インターン生 新潟開志専門職大学(※)事業創造学部所属の2、3年生の6名

※インターン期間2022年9月25日～2023年1月24日

(※)新潟開志専門職大学 <https://kaishi-pu.ac.jp/>

2020年4月に開学した新潟県新潟市に本部を置く専門職大学。事業創造学部、情報学部、アニメ・マンガ学部を設置。在学生数は約300名。



■開催の経緯



新潟県新潟市で大衆演劇公演を行っている古町演芸場は、地元の専門職大学である新潟開志専門職大学のインターン生6名を2022年9月25日から受け入れました。

古町演芸場の逸見友哉支配人の意向により、「インターン生とつくる大衆演劇公演」を12月に行うことを決定し、開催に向けて動き出しました。

逸見支配人は、インターン生とつくる大衆演劇公演を企画するにあたり、**地元新潟の歴史にまつわるお芝居**を制作することを考案。お芝居の題材には、江戸時代に起こった「新潟明和騒動」(*)を選びました。

※「新潟明和騒動」

新潟明和騒動（にいがためいわそうどう）は、1768年（明和5年）越後国新潟町（現新潟県新潟市）において町民が藩政に抵抗しおよそ2ヶ月にわたる町民自治を行なった事件。新潟町が長岡藩から御用金を課した事を受けて、新潟町の商人涌井藤四郎は各町内代表で無期延期を策した事で密告され藤四郎は投獄されてしまう。その事に憤慨した町人たちが一揆を起こした。その後、藤四郎が中心となり約2ヶ月に渡り新潟町の自治を行っていたが、長岡藩は事の収縮のため、新潟町の町人達に米と引き換えに藤四郎の召集を命じた。その結果、藤四郎は出頭し、後に打ち首となった。（引用元：Wikipedia）

■お芝居「明和義人伝」制作過程

インターン生の6名のうち、「新潟明和騒動」を周知している学生はおらず、歴史の調査から取り掛かりました。学生たちはインターネットなどによって情報収集を行い、逸見支配人のアドバイスを受けながら、「新潟明和騒動」の詳細や背景などをまとめて理解を深めていきました。

お芝居の脚本は、脚本家・演出家として活躍している渡辺和徳氏に依頼。インターン生が「新潟明和騒動」についてまとめた資料を提出した上で、学生たちは渡辺氏とオンラインで繋ぎディスカッションを行いました。ディスカッションで渡辺氏は、「何を伝えたいか」「これを伝えたことによって、何が起こるか」などを学生たちに問いかけ、学生たちは歴史的事実だけでなく、演劇を通して「新潟明和騒動」を伝えることの本質について思考を深めました。

渡辺氏は学生たちとの2回のディスカッションを経て脚本制作に取り掛かり、11月半ばころ大衆演劇脚本「明和義人伝」が完成しました。

◎インターン生たちのコメント

——大衆演劇、古町演芸場でのインターンを経験してみて

「大衆演劇は若者に刺さるのかなと思っていましたが、観てみたら意外と最近の曲だったり、お笑い要素が交ざっていたりして、イメージと違っていた」小根山朋紀さん（21歳・3年生）

「見る前は歌舞伎に近い感じなのかと思っていましたが、初めて観てみたら新鮮な感じで面白かった。衝撃が強かった」立川郁弥さん（20歳・2年生）

「エンタメ系に興味があり、古町演芸場でのインターンに申し込んだ。古文や漢文などが苦手な理解できるか不安だったが、観てみたらそういう事ではなく、言葉が分からなくても表情などで伝わった。おばあちゃん達だけではなく、自分達も楽しめるものなんだと感じた」森くるみさん（20歳・2年生）

「若者が観るものではないという先入観があったが、実際に観てみたら、若者が親しむ曲だったり、踊りがあったりと、笑いがあつたりと、印象が変わった」佐野凌也さん（20歳・2年生）

「(初めて観て) 思っていたよりも面白かった。2,000円くらいでこれだけのものが観られるのは凄いなと思った。演劇に音が組み合わさって、その時のシーンを表現している点などが面白いと思った」竹内寛人さん（20歳・2年生）

——お芝居「明和義人伝」制作について

「新潟明和騒動は、今回初めて知った。インターネットを使って歴史を調べ、起承転結をまとめて脚本家の渡辺さんへ伝えた。渡辺さんからは『何を伝えたいのか』を問われ、厳しく指導を受けた。脚本づくりに携わるのは初めてで、難しい作業だった」小根山朋紀さん（21歳・3年生）

「(新潟明和騒動については) 聞いたことはあったが、ちゃんとした内容については今回初めて知った。脚本家の渡辺さんから、オリジナリティを出すのが良いと言われた。町民が助けに行くシーンを長めにして、リアリティを出す方がいいんじゃないかという意見などをメンバーで出し合った」燕優哉さん（20歳・2年生）

「(脚本家の渡辺さんから) 伝えたい事は何か？それを伝えたことで何が起こるの？と質問され、掘っていただいた。言葉に詰まることもあり、深く考えていなかったという事が分かった」森くるみさん（20歳・2年生）

■大衆演劇お芝居「明和義人伝」(2022年12月18日古町演芸場公演)

- ・特別出演 古都乃竜也、梅乃井秀男
- ・下座 鳳翔座
- ・脚本 渡辺和徳
- ・配役

涌井藤四郎・・・三ツ矢洋次郎
 岩船屋佐次兵衛・・・古都乃竜也
 太助・・・風美涼太郎
 五賀野右衛門・・・林京助
 八木屋市兵衛・・・龍錦
 今泉岡右衛門・・・梅乃井秀男
 石垣忠兵衛・・・三ツ矢春馬
 牧野忠精・・・三ツ矢かける

【出演者紹介】

■古都乃 竜也 (ことの たつや)

「一見劇団」座長を務める。

兄の一見 好太郎と共に二枚看板として活躍している。

■鳳翔座 (おうがざ)

初代・常盤洋之助が昭和10年代に旗揚げした

常盤劇団を前身とする三ツ矢劇団に

風美劇団の風美涼太郎座長が加入。

2人座長体制となり、劇団名を鳳翔座(おうがざ)に改名。

2022年8月安田温泉やすらぎの湯かわら座で新スタートを切った。

タイプの異なる2座長の絶妙なコントラストが人気。

新風PROJECT革新 #3
12月18日(日)
新潟開志専門職大学インターン生と作る
大衆演劇公演

お芝居「明和義人伝」 脚本：渡辺和徳

※お芝居のあとに舞踊ショーがあります
 ※新潟市立白山小学校の生徒の有志の皆様が
 木遣りのパフォーマンスを披露予定(昼の部のみ)

特別出演 古都乃竜也・梅乃井秀男 下座：鳳翔座

公演時間
昼の部 12:00～15:00(開場 11:00～)
夜の部 17:30～20:30(開場 16:30～)

大人(予約・座席料込)	2,000円
小人(4歳～小学生/予約・座席料込)	1,000円
ショー割(座席料込)	1,100円
学生割(座席料込/受付にて身分証・学生証を提示)	1,100円
前売り券(予約・座席料込)	1,900円

12/18(日)
 11:00～17:00
ミニ縁日開催

席ご予約
 問い合わせ ☎025-201-8201
 (受付時間 10時～18時)

古町演芸場 新潟県新潟市中央区古町通6-967-2

■広報活動

インターン生たちは脚本の制作と並行して、広報活動を行いました。まず取り組んだのは、専用ホームページの制作と、ツイッターを活用したWEBプロモーション活動です。インターン生たちは、WEBサイトの制作やプロモーションについては大学の授業で学んでおり、知識を活かして実践する場となりました。

インターン生が制作したホームページ (<https://sites.google.com/view/meiwagijin/>)

Twitter「新風プロジェクト革新」(https://twitter.com/shinpu_project)

一方、インターネット以外のプロモーションでは、地元住民への幅広い年代への周知を狙い、新潟市が運営する「回覧板」を活用した広報を計画しました。しかし、新潟市役所の担当課に問い合わせたところ、収益が伴うイベントの告知はできないことが判明。回覧板での広報活動は断念することとなりました。インターン生たちは他の方法を模索したものの、時間的余裕が無くなってしまい、新たなプロモーションは行えませんでした。

9月25日のインターン開始から公演開催までは、約2ヶ月半。実質的なインターン活動に携われる時間は限られているなかで、プロモーションにかかる時間が不足したことが反省点となりました。

■公演当日の様子



「本日、明和義人伝のお芝居や縁日のイベントを行っています。ぜひお立ちよりください」

公演当日の天候は雪。厳しい寒さの中、インターン生たちは劇場前に立ち、呼び込みを行いました。来場客に対しては、インターン生たちによる手書きメッセージを添えたカイロ210個を用意。入口にて一人一人にカイロを手渡し、客席案内を行いました。



午前の部では、約50人が席を埋めた古町演芸場。「明和義人伝」の幕が上がりました。昼の部と夜の部の2公演を行い、合計100名を超える来場があり、観客を楽しませました。



◎観客の反応

「地元の歴史をお芝居で見られるのはとても嬉しい。『明和義人』を詳しく知ることができてよかった」(45歳代・女性)

「過去の地元偉人たちが活躍があって、今の新潟の発展があるのだと感慨深くお芝居を観た。ぜひ多くの人に届けて欲しい」(44歳・男性)



■地域を巻き込む施策

今回、インターン生とつくる公演を行うにあたり、大衆演劇と古町演芸場の認知拡大を目的とし、地域を巻き込む施策を実施しました。

◎新潟市立白山小学校の「木遣り」パフォーマンス披露



地元の歴史を題材としたお芝居「明和義人伝」を行うにあたり、地域を巻き込むことを目的として、地元小学校の生徒による「木遣り」パフォーマンスの披露を行いました。

古くから地域のお祭りなどで行われてきた「木遣り」。地元有志団体「古町8番組」が伝統を受け継ぎ後世に伝えるため、地元の小学校へ出向いて総合学習の一環として「木遣り」の指導を行っているものです。今回、古町演芸場での「明和義人伝」初披露に合わせ、地元の小学校である新潟市立白山小学校の生徒たちによる「木遣り」を依頼し、パフォーマンスいただきました。



◎ミニ縁日・おでん販売



ミニ縁日では、「射的」と「輪投げ」を行いました。

事前に用意した景品や備品、案内ポップを準備し設置しました。悪天候もあり人通りが少なかったものの、ミニ縁日には親子連れなどが立ち止まり、楽しむ様子が見られました。また、「木遣り」を披露した白山小学校生徒やその家族たちも立ち寄り、ミニ縁日を喜んでいただきました。

また、地元の居酒屋店による「おでん販売」を実施しました。おでんの具1つ10円という、サービス価格にて提供。用意した約50人分のおでんがほぼ完売となる盛況ぶりでした。



■総括

「新潟明和騒動」を題材としたお芝居を新たにつくるにあたり、地元インターン生たちが調べ、制作に携わったことは、参加学生たちだけでなく、私たち大衆演芸協会にとって貴重な取り組みとなりました。地元の歴史や偉人を題材に大衆演劇のお芝居として伝えることは、とても有益であり、大衆演劇の周知のみならず、地元の歴史文化を後世に伝える取り組みとしても大変意義深いものと感じました。

今回インターンを終えた学生達からは、「知らなかった歴史や人物を知ることができた」「大衆演劇は古典的で難しいイメージを持っていたが、現代的な演出がたくさん取り入れてあって驚いた」「友達にも伝えたい」などという嬉しい声を聞くことができました。

一方、反省点としては準備期間が短かった点が挙げられます。インターン生全員は大衆演劇を見るのが初めてでした。大衆演劇の歴史を伝え、演劇の制作過程、舞台の魅力などを理解してもらうための時間をよりかけることが出来ればよかったですと思います。また、公演のプロモーション活動においては、学生達が思うような活動が十分に出来ませんでした。今回は、WEB 上でのプロモーションが中心となりましたが、本来であれば大衆演劇に触れたことが無い様々な年代の人に届けるため、足を使った広報活動を行うことが必要だったと感じました。



■今後の展開

今回完成した「明和義人伝」は、2023年7月に新潟県民会館で特別公演を行います。また、8月には、明和義人祭実行委員会が主催する「明和義人祭」との関りも模索しております。

また、今回の「明和義人伝」制作を皮切りに、他にも新潟で活躍した偉人を舞台化し、「新潟の偉人シリーズ」として学生インターンや地域住民を巻き込んで制作していきたいと計画しています。

今回の地元大学インターン生とともに作った大衆演劇公演の経験を活かし、大衆演劇のさらなる発展と、歴史文化の継承による社会貢献を行ってまいります。

以上